徳山大学広報

学園台の風

第 42 号

平成１９年７月１日　発行

＜学生生活のいま＞

ビジネス戦略学科知財開発コース３年

計田和輝　君

僕の１日は、いろいろな時間に綴られています。
知財の授業の時間、友だちとディスカッションする時間、
先生の研究室を訪ねる時間、そして生活の場としての
寮で過ごす時間、どれも僕にとって大切な時間です。

発行　徳山大学総務部
編集責任者　蔵田英孝
山口県周南市学園台
TEL　0834-28-0411（代）

福祉情報技術入門

井手口　範男

「福祉情報技術」それは、言葉からくるイメージほど固いものではありません。私たちの身近なところに存在し、私たちの生活を良くしていく上で、なくてはならないものです。さて、福祉情報技術とはどんなものなのでしょうか？

私たちは、日常の生活の中でたくさんの道具を活用しています。その、何気なく利用している道具の中には、障害のある人のために開発されたものも多いことをご存知でしょうか？　例えば、「ライター」、「温水洗浄便座」、「電話」などです。ライターは、片手を失った傷痍軍人の「自分で火を着けてタバコを吸いたい」という希望から開発されたと言われていますし、温水洗浄便座は医療機関で主に使用されていたものです。電話は、聴覚障害者である母を持つベルが、母と話をするために開発したという話もあります。しかし、今では、ライターには骨董的な価値を持つものも多くありますし、温水洗浄便座は家庭にも広まってきています。

電話にいたっては携帯電話となって一人で複数所有する人も大勢います。

これらは、障害のある人のために開発された道具がとても便利で、一般に使われるようになった例です。しかし、障害のある人が、一般に便利に使われている道具を利用しようとした場合、困難であることが多いのもまた事実です。様々な技術が発達し、便利になる一方で、それらの技術を利用できない人が不利益を受けるような場面も増えてきているのです。そこで、障害のある人たちの活動を支援することが必要になります。これらの支援に科学技術を活用することが行われており、支援技術（Assistive Technology）と呼ばれています。

支援技術の身近な例は、視覚に障害のある人に文字情報を提供する点字や、移動を支援する警告・誘導ブロック（いわゆる点字ブロック）でしょう。近年は、パーソナルコンピュータ（ＰＣ）やインターネットなど情報技術（ＩＴ）の発達によって、日常の様々な活動がＰＣ１台で行えるようになっており、支援技術としての活用も進んでいます。情報検索や電子メールは言うに及ばず、ショッピングや銀行や郵便局への振込も行えます。移動に困難のある人もコンピュータが１台あれば、様々な活動を自立して行うことが可能になるのです。視覚に障害のある人も「スクリーンリーダー」と呼ばれる画面の文字情報を音声に変換して読み上げてくれるソフトウェアを使って、ＰＣを活用することが可能です。しかしながら、依然としてＰＣを使うこと自体に困難のある人たちは存在しており、こうした人たちを支援できる人材が求められています。これらの支援に必要な障害と情報に関する知識を併せ持った人に与えられる資格として、福祉情報技術コーディネーター資格があります。徳山大学では、この資格取得を奨励しており、資格取得に向けた講座を開設するなどバックアップしています。

最後に、これらの支援技術が必要なのは、今、障害のある人たちだけなのか考えてみて下さい。人は誰もが年齢を重ね、一定の年齢になれば身体機能が低下し始めます。４０歳程度から水晶体の白濁（白内障）が始まりますし、３０歳を超えると高い音が聞こえにくくなります。また、１０代、２０代であっても、怪我や病気によって一時的に障害を持つことになるかもしれません。つまり、障害に関する問題は、ある特定の人たちだけの問題ではなく、私たち全員に共通の、誰もが意識しなければいけない問題であると言えます。

井手口　範男（いでぐちのりお）准教授

2006年４月から徳山大学福祉情報学部に就任。

2005年、全盲ろう（目が見えない、耳も聞こえない）の福島智助教授のもとで、障害支援に関する研究を行う、東京大学先端科学技術研究センターのバリアフリープロジェクトに特任助手として参加。専門は知覚心理学。

島津周南市長が大学を訪問

徳山教育在団理事に就任された、島津幸男周南市長が、６月25日徳山大学を訪問されました。理事長・学長と懇談の後、学生食堂や８号館など学内を見学されました。市長はマンガ・アニメを研究する学生たちの集う、知財館にも立ち寄られ、特任教授のなかはらかぜ先生の話を興味深く聞いておられました。

知財館前にて記念撮影

左より　なかはら先生　池髙理事長　島津市長　杉光学長

実践教育活動でしょうせいえんを訪問

佐藤ゼミ・吉岡ゼミの学生40名が、今年も、下松市にある「知的障害者更生施設第１しょうせいえん」を訪問見学しました。これは佐藤英雄先生、吉岡剛先生の教養ゼミの講義（実践教育活動）として、二十年前から行われています。実践教育活動とは、知的障害者の更生施設や老人ホーム、また独居老人のお宅を訪問して、福祉現場を実際に体験することから、学生自身が、福祉についての考えを深めていくことを目的として行われてきました。この日は、施設の概要説明と、施設見学が行われ、学生からも活発な質問が出ていました。

しゅうなんFMで毎週とくだい情報をオンエア

しゅうなんＦＭにおいて毎週土曜日10時30分より「徳山大学ラジオワッツニュー」を放送し、大学の情報をお届けしています。

しゅうなんＦＭ 78.4 MH（周南市・下松市・光市エリアにて聴けます。）

パーソナリティの松本佳子さん

卒業生紹介

真殿宏二さん（26 期卒）

周南市政所で「パン工房夢風車」を経営される真殿宏二さん（26期卒業）昨年９月にオープン以来、周南地区各地よりお客さんが訪れる話題のパン屋さんです。その生地のきめ細やかさには思わずうなってしまいます。１度訪ねてみられては、いかがでしょうか。

TEL（０８３４　６３　２６３３）

営業時間　６時30分から18時30分まで

「ヘルシーカレッジとくやま」のいま

地域の皆様との二年

大学が地域貢献を目的とした「ヘルシーカレッジとくやま」をはじめて二年が経過しました。これまでの経過と現状についてお伝えします。

平成17年社会保険庁の改革の一環として福祉施設の見直しがあり、政府管掌健康保険山口保険福祉センターが運営していた「ヘルシーパルとくやま」が閉館されることとなりました。ここでは一〇〇〇名以上の市民の方が健康や、教養に関する講座を受講されていました。「これらの地域の方々をこのままにするわけにはいかない」ということから、同年5月、ヘルシーパル側より徳山大学に対して、事業継続の申し出がありました。大学として検討した結果、多くの市民の方が利用されている事業であり、地域の中の大学として貢献する役割があるとして、事業を引き継ぐことを決定しました。

こうして、申し出より、わずか3ケ月あまりの平成17年8月より「ヘルシーカレッジとくやま」としてスタートしたのでした。

開設当時は、施設自体の問題や、受け入れに不慣れな点など、多くの問題を抱えたままのスタートとなりました。しかし、市民の方の温かいご理解をいただき、ほぼヘルシーパル時代の受講生が、引き続きヘルシーカレッジへ受講されることとなりました。

ヘルシーカレッジでは、4ケ月ごとに前期・中期後期と分けて、手続きを行っていますが、継続率が78％と高い状況が続いています。特に、健康づくりでは85％という継続率を示しています。19年度前期までは健康づくりのレッスン教室が1箇所で満杯状態であり受入れが不可能でした。しかし、今回中期（8月）より大学8号館の整備に伴い、講座増設や定員増が可能となりました。おかげさまで、現在の受講生は2年前より増加しています。今後も、多くの市民の方が利用されやすいように、新たな取り組みに、チャレンジしていきたいと考えています。

（平成17年中期受講生状況・スタート時）

健康づくり講座	35講座	668人
教養講座	28講座	406人
合計		1、074人

（平成19年前期受講生状況）

健康づくり講座	34講座	695人
教養講座	39講座	449人
合計		1、144人

８号館でのフラダンス講座

８号館での気功太極拳講座

改装、整備された８号館

オープンキャンパスのお知らせ

8月4日（土）11：00～15：30

在校生がキャンパスを案内しながら皆さんの質問にもやさしくお答えします。是非、この機会に徳山大学へ！！